

第26回（令和5年度）下水道管路管理主任技士 実地試験 【正答・解答例】

（Ⅱ. 施工計画書作成に関する実務）

[問3] 【正答】

① 工種別作業日数の算定

作業種別		高圧洗浄車清掃工 (現場作業)		テレビカメラ調査工 (現場作業)		テレビカメラ調査工 (報告書作成)	
対象施設	延長	標準作業量	作業日数	標準作業量	作業日数	標準作業量	作業日数
塩ビ管 φ200	1,350 m	286 m/日	4.7 日	280 m/日	4.8 日	560 m/日	2.4 日
陶管 φ350	1,170 m	186 m/日	6.3 日	150 m/日	7.8 日	300 m/日	3.9 日
ヒューム管 φ500	570 m	212 m/日	2.7 日	280 m/日	2.0 日	560 m/日	1.0 日
合計		14 日		15 日		8 日	

※ 作業日数の端数処理方法

- ・管種・管径別の作業日数は、少数点以下第2位を四捨五入し、少数点以下第1位までの表記とすること。
- ・作業種別毎の合計作業日数は、小数点以下を切り上げた整数の表記とすること。

② 労務職種別人数の算定

高圧洗浄車清掃工 (現場作業)		テレビカメラ調査工 (現場作業)		テレビカメラ調査工 (報告書作成)	
労務職種名	人数	労務職種名	人数	労務職種名	人数
清掃技師	14 人	調査技師	15 人	管理主任技師	3 人
清掃作業員	42 人	調査技師補	15 人	管理技師	8 人
運転手(特殊)	28 人	調査助手	15 人	調査技師	8 人
運転手(一般)	14 人	運転手(一般)	15 人	調査技師補	8 人
合計	98 人	合計	60 人	合計	27 人

※ 解答上の注意点

- ・上項の①にて算定した、各工種の作業日数合計（1日単位日数）を基に算定すること。
- ・労務職種別の人数は、小数点以下を切り上げた整数の表記とすること。
- ・積算資料において「必要に応じて計上する」こととなっている作業人数は計上しないこと。

③ 工程表の作成

工程表 【解答例】

月日 工程・種別	10月														11月																						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15							
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15							
作業 日数																																					
1. 準備工	■																																				
2. 高圧洗浄車清掃工 (現場作業)						■					■																										
3. テレビカメラ調査工 (現場作業)						■					■																										
4. テレビカメラ調査工 (報告書作成)																■																					

※ 工程表作成上の注意点

- ・工程表は、バーチャート（「——」もしくは「■」）で記入すること。
- ・土曜日及び日曜日は、不稼働日（業務（作業）を行わない日）とし、その他の曜日は全て稼働日（雨天・祝日は無視する）とする。
- ・作業日数欄には、「問3-①工種別作業日数の算定」にて算出した日数を記入すること。
- ・準備工は、10月2日に着手するものとし、業務（作業）に要する日数を5日間とする。
- ・現場作業は、準備工完了の翌日（翌日が不稼働日の場合は、翌月曜日）から着手するものとし、高圧洗浄車清掃工とテレビカメラ調査工は、別の作業班での並行作業とすること。
- ・報告書作成は、現場作業完了の翌日（翌日が不稼働日の場合は、翌月曜日）から着手するものとする。

[問4]

① 解答欄

業務件名	
工 期	
業務場所	
業務内容	
あなたの立場	

② 解答欄（500字以内横書き記入）

* 解答欄（20字×25行）省略